

笑顔と笑顔

5. 21

大切さ学ぶ

22

泊小赤ちゃん登校日

湯梨浜町泊の泊小学校で19日、児童が赤ちゃんとその母親らと交流する「赤ちゃん登校日」が行われた。児童たちは、泣いたり笑ったりする赤ちゃんをあやしたり、母親の赤ちゃんへの接し方を見て、コミュニケーションの大切さを学んだ。

登校日には、9組の親子連れが訪れ、鳥取大学医学部の高塚人志



お母さんがあやす赤ちゃんの顔をみて表情を和らげる児童たち

准教授の指導で、5年生42人がグループに分かれて交流した。

児童たちは、最初は緊張した面持ちだったが、赤ちゃんと接しているうちに表情が和らぎ、笑顔で赤ちゃんをあやすなどした。中西真衣子さん(10)は「赤ちゃんが泣いている時、お母さんが想像して赤ちゃんのことよく知ろうとしていた」と感心していた。

生後3カ月の長男、

話していた。

咲大ちゃんと参加した倉吉市清谷の原田五月さん(30)は「児童が子どもをかわいがってくれてうれしかった」と

同町では本年度、羽合、東郷小、北浜、東郷中でも赤ちゃん登校日が行われる。

(八幡祥代)